

2015年8月20日
第1回臨床開発環境整備推進会議資料

資料5-3

再生医療技術の観点から クリニカル・イノベーション・ネットワークへの期待

(一社) 再生医療イノベーションフォーラム
代表理事・会長 戸田 雄三

CINに再生医療の技術を組み合わせて 『治験先進国』を実現する

CIN構想の目標：

各種疾患登録情報を用いて臨床開発に関するネットワークを構築し、**経済効率的な治験**を実施できる開発環境を整備し、国内の開発を活性化し、海外メーカーを国内開発に呼び込み、**臨床開発を加速**する（クリニカル・イノベーション・ネットワーク構想資料より）

今、まさに、臨床開発の加速が国家レベルの課題

- 新薬の社会実装までの期間の短縮
- 開発コストの削減
- 新薬開発確率の向上
- アカデミア、ベンチャーによる創薬機会の増加

+

日本の健康産業を
グローバルリーダーに育てる

CIN構想は最終的に、日本が治験先進国を目指すこと。

NCによってレジストリーを一元管理できるようになれば、非常に有効。これに再生医療の技術を組み合わせると、治験先進国の実現を加速できる。つまり、細胞技術を活用し、

『ヒト試験の一部を細胞での評価に置き換えていく』

結果、CINの活用により、日本が世界の治験をリードできる環境整備をする。

日本発、世界初の創薬支援システムの構築

『治療ヒストリーに紐付けされた細胞を用いて、世界に先駆けた創薬支援システム』

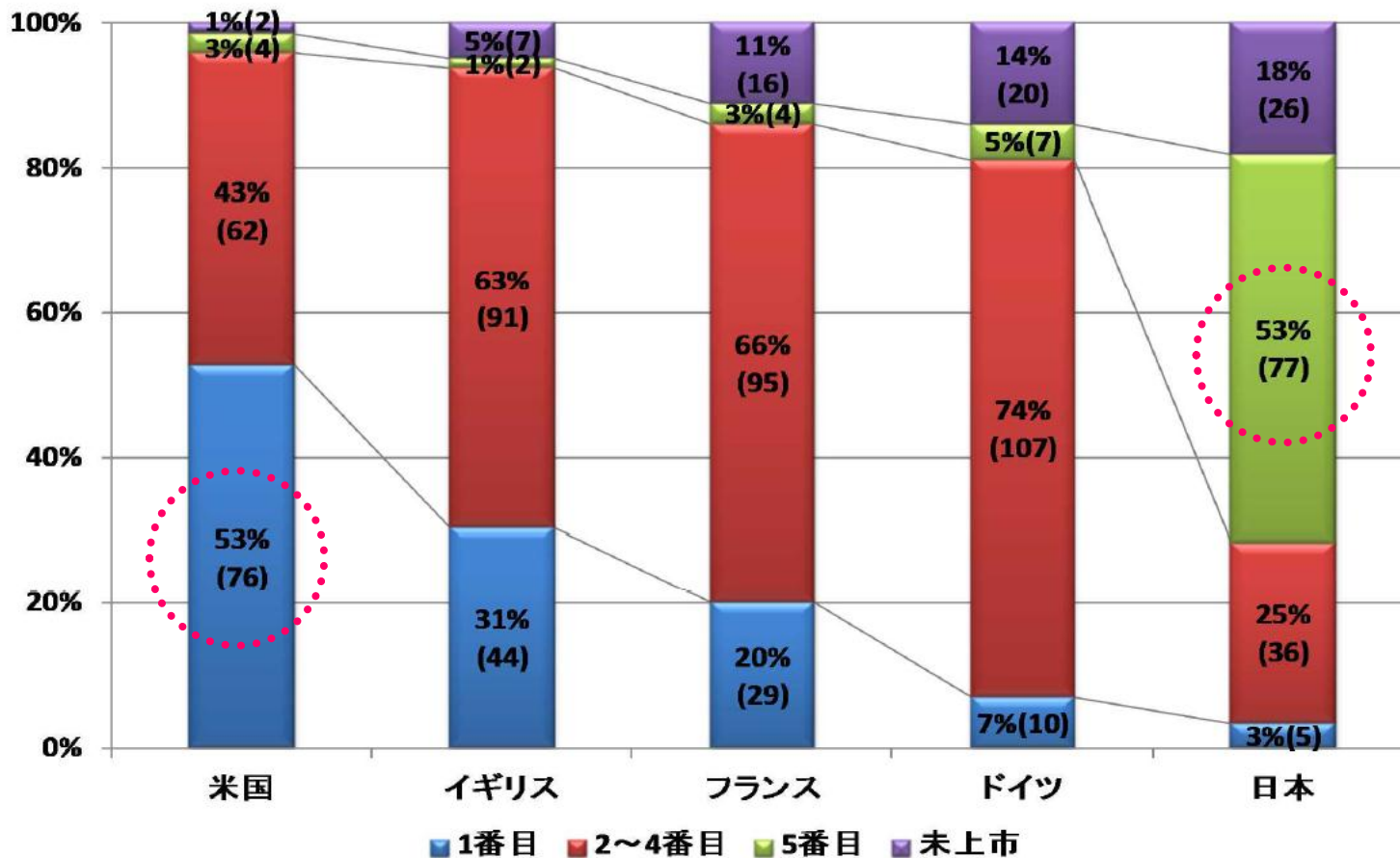
を構築する。

手始めに、中枢神経系、癌、等、アンメット・メディカル・ニーズの高い疾患領域の中から絞り、具体的に検討したい。

(参考)

【世界売上上位150品目(2011年)の上市順位】

米国では約50%が1番目に上市、一方、日本では約50%が5番目に上市。



注: 2012年12月時点調査

出所: IMS World Review, IMS Life Cycle, Pharmaprojectsより作成(転載・複写禁止)
作成: 日本製薬工業協会 医薬産業政策研究所